

フラガール

希望の虹

変わらぬ、瞳を。

フラガールの学び舎である「常磐音楽舞踊学院」は、今年で創立60年を迎えました。日本で最初のフラダンス、ポリネシアン民族舞踊学校として、これまで428名のフラガールを生み出してきました。

「フラシティいわき」を掲げる本市にとって、その象徴ともいえるフラガール。炭鉱と家族を救うために立ち上がった第1期生フラガールの精神は、半世紀以上が経った今もなお、脈々と受け継がれています。

映画「フラガール」から18年。本特集では、さまざまな苦難を乗り越え、進化を続ける彼女たちの今を伝えるとともに、いわきが持つ誇り高きフラ文化の魅力をお届けします。

幕末の安政3（1856）年、みろく沢（内郷）で発見された石炭層。その翌年から採掘が始まり、常磐炭田は、本州最大の炭田として、明治・大正・昭和中期にかけて国のエネルギー需要を賄う基幹産業へ発展し、日本の近代化と戦後復興を支えてきました。しかし、昭和30年代になるとエネルギー革命によって石炭から石油へと移行し、石炭産業の斜陽化とともに、炭鉱の閉山が相次ぎました。この窮地を救うため、石炭を掘るたびに湧き出てくる温泉を活用した日本初のテーマパーク「常磐ハワイアンセンター」（現スパリゾートハワイアンズ）が昭和41（1966）年に誕生。この年は、5市4町5村が合併して「いわき市」が誕生した年と同じでもあります。

炭鉱から観光へ、杜運を懸けた一大プロジェクト。その目玉となったのが炭鉱の少女たちによる「ポリネシアンショー」。そのダンサーを養成するための学校として昭和40（1965）年に設立されたのが「常磐音楽舞踊学院」です。

国のため、いわきのため、家族のため、さまざまな苦難を乗り越えてきた先人たち。その思いを受け継ぎ、フラガールたちは今日も舞台上に立っています。



▲オープン当時の常磐ハワイアンセンター



▲第1期生フラガールのレッスン風景



▲初代理事長の中村豊氏と第1期生フラガール

常磐音楽舞踊学院の歩み

- 昭和19年 常磐炭礦株式会社設立
- 昭和39年 常磐湯本温泉観光株式会社設立
- 昭和40年 常磐音楽舞踊学院設立
- 昭和41年 常磐ハワイアンセンターオープン
- 昭和42年 女子音楽科を新設
- 昭和43年 学校教育法に基づく各種学校として福島県知事の認可を受ける
- 昭和44年 歌謡科（歌謡曲・民謡）を新設
- 昭和46年 NHK紅白歌合戦に出演
- 昭和51年 常磐炭礦、全面閉山
- 平成2年 スパリゾートハワイアンズへ名称変更
- 平成18年 映画「フラガール」公開
- 平成23年 東日本大震災により休館
- 平成24年 「フラガール全国きずなキャラバンスタート」
- 令和元年 全館営業再開
- 令和3年 「フラガール全国きずなキャラバン2021」スタート
- 令和6年 「フラガール全国きずなキャラバン24」スタート
- 令和6年 創立60周年
- 令和6年 映画「フラガール」公開